

セッション4 モニタリング

18. シヤント肢の末梢血流評価に LDF が有用であった 1 例

○望月 佑記 (モツキユキ)¹⁾、井上 英行²⁾、守本 結衣¹⁾、松田 寛之¹⁾、川述慎太郎¹⁾、
緒方 愛¹⁾、梶本 克也³⁾、大坪 茂⁴⁾

関川病院 臨床工学科¹⁾、関川病院 腎臓内科²⁾、関川病院 循環器科³⁾、
東都三軒茶屋クリニック 腎臓内科⁴⁾

【目的】 透析にてシヤント肢の手掌にチアノーゼを認めた患者に対し、ポケット Laser Doppler Flowmetry (ポケット LDF[®]) による末梢循環血流量測定の有用性について評価した。

【対象】 チアノーゼを認める 71 歳男性 (原疾患：腎硬化症、透析歴 6 年) と、チアノーゼを認めない 77 歳女性の 2 例。

【方法】 ポケット LDF[®] を使用し、穿刺開始前から返血終了時までのシヤント肢・非シヤント肢の第 3 指にて連続的に末梢血流を測定し、血圧、%BV、SpO₂ も同時に測定し、チアノーゼとの関連を評価した。

【結果】 チアノーゼを認めた患者において、シヤント肢の末梢血流は開始前 41.6 ml/min より返血直前 6 ml/min と経時的に低下し、返血後には 27.7 ml/min と改善した。シヤント肢のチアノーゼも同様に徐々に悪化し、返血後速やかに回復した。透析経過中、血圧、シヤント肢の SpO₂ の著変は認めなかった。%BV は経時的に低下し、返血直前は -12.5% となった。非シヤント肢の末梢血流量は低下せず、チアノーゼも認めなかった。チアノーゼを認めない患者においては、%BV の低下を認めたが、他のパラメーターの著変は認めなかった。

【結論】 末梢血流のみシヤント肢のチアノーゼと同じ変化を示した。ポケット LDF はシヤント肢の状態評価に有効である可能性がある。